

パッション・インタビュー
Passion

今回は、ボランティアサークル
 手作り布の絵本「ひよこの会」
 会長 松野 令子さんにお話を伺いました。

子どもたちに喜んでもらいたい一心で

やわらかく、あたたかさを持つ布の絵本

手作り布の絵本「ひよこの会」について教えてください。
 ひよこの会は、図書館と婦人の参加者が中心となって、昭和60年4月に結成しました。
 ひよこの会という名称は、初めて作った布の絵本がひよこひよこだったことから、名づけました。「子どもに親しまれるように」という願いもありました。
 現在の会員は女性10名で、1月、8月を除く、第2、第3木曜日に図書館で製作活動しています。

どのような活動をしていますか？

図書館に集まって、布の絵本、タペストリー、指人形、エプロンシアター、遊び道具、大型絵本を入れる手さげ袋などを作っています。タペストリーは、壁掛けのことですが、クリスマスツリー、お正月風景、節分の鬼おひなさまなど、季節にちなんだものを作り、児童コーナーの壁に、その季節のものを飾っています。

布の絵本、指人形、エプロンシアターは、図書館行事で使用されています。また、貸し出しも行っています。たくさん子ども、お母さんに人気があるようです。

手作り布の絵本と「ひよこの会」の魅力は何ですか？

紙の本とちがい、柔らかさ、温かさを感じることができるのが、布の絵本の良さだと思います。

天然の台布にフェルトなどで絵柄を縫い付けています。手作りという点もあって、お母さんのぬくもりを持っているのではないのでしょうか。ひよこの会のメンバーは、子どもたちに喜んでもらいたい一心で作っています。

例会では、針を動かしながら、会話を楽しみ、お昼を一緒に食べた



図書館行事で使う指人形を作っているところ。布の絵本です。

布の絵本は、図書館の児童コーナーにあります。貸し出しも行っています。



布の絵本は、図書館の児童コーナーにあります。貸し出しも行っています。



PROFILE

まつの 松野 令子さん

ボランティアサークル
 手作り布の絵本ひよこの会会長
 問合せ 市立図書館
 ☎0164・42・2300



左側がエプロンシアター、右側がおひなさまのタペストリーです。

布の絵本、エプロンシアターは、布に付いているお人形などの部品を取ったり付けたったりして遊べるようにできているので、その部品がなくなることもあり、その補修作業も行っています。
 いつもは、布の絵本の作り方の本をお手本に作成していますが、背景、図柄、素材の選択など、自分たちで考えたオリジナルも作成しています。
 また、図書館職員と一緒に、札幌の「ふきのとう文庫」へ研修に行き、布の絵本の専門的アイデアや材料の勉強をしたこともあり、マジックテープ素材の布を使った作品を取り入れ、子どもたちに喜ばれています。

り、わきあいあいと活動しています。お昼を食べ終わったらかと思わず、すぐに針を持ち、黙々と創作に夢中になっていることもあります。ときには楽しく、ときには真剣に取り組める、これが、ひよこの会の魅力です。

読者へのメッセージを！
 布の絵本、エプロンシアターに付いている人形などの部品を大切に、遊んでほしいと願っています。夢のある布の絵本づくりをしてみたい人は、ご連絡ください！

留萌の元気発見！留萌びと倶楽部



木藤 健史さん
 きとう・たけふみ

中学生の時に始めたサッカーに魅せられ、高校、大学とサッカーに明け暮れる。大学卒業後、教師になり、平成9年、母校の留萌中学校でサッカー部の顧問となる。中学生の指導のほか、サッカーやフットサルの審判（管内でも数少ない2級審判）として、地域のサッカー振興に情熱を傾ける木藤さんです。

「良い審判がいる地域は選手のレベルやサッカーの質も高い。これは、現Jリーグ一級審判、教育大学岩見沢校の越山先生の言葉です。」

私は、留萌出身で、中学からサッカーを始めました。大学へ進学し、教員を目指したのも、サッカーを続けたかったからです。転勤で留萌へ戻ってきたとき、久しぶりに地元のサッカー関係者と再会し、何かほっとした気持ちになったのを覚えています。

自分がいた頃とは、留萌のサッカー環境も変わり、少年団活動をはじめ、大会も盛んに行われていました。

度々、中学生や社会人の大会に呼ばれて審判を手伝いました。そこで目にしたのは、いいプレーも見せるけどつまらない反則もする選手が多いことでした。よく、いい選手なのに、もったいないなあ。と、思っていました。サッカー審判の資格を取ろうと思っ



体育館でのフットサルのゲーム風景

この大会には、留萌管内や旭川からの参加もあり、選手のプレーや審判のレベルも上がってきていますが、タバコの後始末やゴミの持ち帰りなど、社会人としてのマナーに欠ける行為が一部で見受けられたのが残念でした。
 スポーツを通じて健全な子供たちを育てていくためにも、大人が手本となつてほしいと願っています。

私の夢は、地元の子どものうちから、将来の日本代表選手が誕生することです。各中学校のサッカー部では、少子化の影響もあって、年々入部者が減ってきている状況ですが、日本は今、ドイツワールドカップ・アジア最終予選で盛り上がっています。君も6年後、10年後のワールドカップを目指してサッカーを始めませんか！